

# 関西学院大学 災害復興制度研究所

## 災害復興をテーマに 連続フォーラムを開催

関西学院大学災害復興制度研究所は、「脆弱な階層、脆弱な地域の復興支援」をテーマとし、「日本災害復興学会」（仮称）の発足準備を兼ねたフォーラムを2日間にわたって開催した。

初日の1月13日は西宮市の関西学院大学学生会館において「被災地円卓会議（第3回被災地交流集会）」。阪神・淡路、新潟県中越、三宅島の被災地をはじめ全国から集まっ

た研究者、NPO、被災当事者、支援者などが、話題提供し、各被災地の教訓と課題について論じ合った。

つづく14日には神戸市の兵庫県公館で連続シンポジウム

を開催。シンポジウムでは、兵庫県の井戸敏三知事が「災害復興と地方分権」と題し、

また関西学院大学災害復興制度研究所の山中茂樹教授が「復興基本法への道」と題し、そ

れぞれ基調講演を行った。

シンポジウム1部は「脆弱な地域」をテーマに、豊岡市長の中貝宗治氏、アートディレクターの北川フラム氏らが、

またシンポジウム2部では「脆弱な階層」をテーマに、ノンフィクション作家の柳田邦男氏、弁護士の水井幸寿氏らが

持論を展開。国土全体が災害に脆弱な上に、高齢化、格差の広がり等が進む中で、被災者支援、災害復興はどうあるべきか、真剣な議論が交わされた。

さらにシンポジウムに続き、「日本災害復興学会（仮称）」の「立ち上げ宣言」が、同学会準備委員長である室崎益輝・消防庁消防研究センター所長によって行われた。（学会は来年1月発足予定）

「復興ネットワーク」としての学会をめざすとしている。

同準備委員会は、中林一樹・首都大学東京教授、宮原浩二郎・関西学院大学教授、木村拓郎・社会安全研究所所長、永井幸寿・弁護士が副委員長を務め、事務局は山中茂樹・

関西学院大学災害復興制度研究所教授が担任することとなっている。

同準備委員会では「災害復興や被災者支援、災害関連の保険や共済制度、税制などに関心がある方々の積極的な参加を求めます」と呼びかけている。

「新しい形の学会」あるいは「復興を迅速かつ効果的に進めるための制度が確立していない」と指摘し、



井戸 敏三  
兵庫県知事



山中 茂樹  
関西学院大学  
災害復興制度研究所教授